

東京学芸大での4・19反戦ビラまき弾圧弾劾！

法政大・武田雄飛丸君をただちに取り戻そう！

2016年4月20日 全日本学生自治会総連合(斎藤郁真委員長)

4月19日、東京学芸大学キャンパス(小金井市)で新入生歓迎のビラまきを行っていた武田雄飛丸君(法政大学文化連盟委員長)を、警視庁小金井署が「建造物侵入」容疑のでっち上げで不当逮捕した。学芸大当局が110番通報して売り渡したのだ。断じて許せない！ 武田君がまいていたのは、文連と全学連が主催して21日に行う鈴木たつお弁護士の新歓講演会(演題：「戦争への道を阻もう！」)、そして4・28沖縄デー闘争への参加を呼びかけるビラだ。「大学で反戦ビラをまいたら逮捕」——この暴挙に徹底弾劾を叩きつけ、今すぐ武田君を取り戻そう！

この弾圧は、改憲と侵略戦争に突き進む日帝・安倍政権の国家意志を体現したものだ。史上最大規模の米韓合同軍事訓練(朝鮮侵略戦争演習)が実施される中、3月29日に安倍政権は安保戦争法の施行を強行した。「戦争できる国家」への転換をかけ、国内階級支配—反戦闘争つぶしを強めている。しかし、そうしたもくろみを切り裂いたのが昨秋の京都大反戦バリケードストライキであり、それに対する今年3月の6学友不当逮捕を完全粉碎して奪還した大勝利だ。

この反戦ストをめぐる攻防が、「大学と戦争」に関する力関係の一切を規定している。全国大学反戦バリケードの現実性におびえる日帝と各大学当局は、この4月新歓からさらに反動化し、腐敗をきわめている。京大では講義棟に監視カメラをはりめぐらして全学自治会同学会への中傷キャンペーンを強め、沖縄大では沖大学生自治会がキャンパス反戦集会を呼びかける5月16日を全学休講とした。法大では、田中優子総長の指揮で外濠公園での新歓花見すら全面禁圧されている。

「戦争の先兵」と化した大学資本を打倒し、学生がストライキで大学・教育を実力で奪い返すこと、京大に続き全国に反戦ストの嵐を巻き起こすこと——これが戦争を止める道だ。フランスの学生・高校生は、オランダ政権の労働法制改悪攻撃に対して全土で校舎をバリケード封鎖して闘っている。

東京学芸大は「大学の目的」に「世界平和の実現に寄与する」などと掲げ、昨年には「安保法制に反対する学芸大有志の会」なる団体を立ち上げて元学長や名誉教授などが呼びかけ人に名を連ねているが、そんなものはまったくのインチキであることが、今回の反戦ビラまき弾圧ではっきりした。教育を金もうけの手段とし、学生を戦争にかり出すための安倍の「大学改革」に屈服し、学生の主体性を破壊してキャンパスでの反戦ビラまきすら認めない「監獄」にした上で、国家権力が容認する範囲内での「官許」のガス抜き「反戦運動」をやっているだけだ。反戦ビラまきを「犯罪」として警察に売り渡すような「運動」に、戦争を止める力などまったくない。むしろ、そのお先棒担ぎとなるだけだ。

「施設管理権」を振りかざして「建造物侵入」ででっち上げに加担した学芸大当局は、「営業権」を掲げて学生処分を乱発する法政大当局とまったく同じだ。大学の主人公は学生だ！ 学生の貧困と自治解体を進める学芸大当局に怒りを叩きつけよう！ そして、この弾圧を主導した日本共産党スターリン主義(教授会・学生自治会)を許すな！ 民青同盟が巢食う学芸大自治会は、全学連のビラまきを見かけたら「至急学生課に通報してください」と学芸大生に公式に呼びかけている。全学連と学芸大生の結合に恐怖し、キャンパス支配を維持するために密告・売り渡しを奨励する唾棄すべき連中だ。極悪の反戦運動弾圧に手を染め、大学当局の「憲兵」を気どる日本共産党スターリン主義を打倒しよう！

警視庁と学芸大当局に全都—全国の怒りを集中し、ただちに武田君の釈放をかちとろう！ すべての学友は、4・28沖縄デー闘争(法大デモ—国会デモ)に大結集しよう！